



現世利益和讚繪鈔

下

二冊





現世利益和讚繪鈔下

釋 皆遵 記

南无阿弥陀佛と云ふべし

閻魔法王尊敬と

五道の眞官と云ふべし

よるをばのたまひのり

南瞻部洲の下五百瑜渥那の如くは依過て炎魔王乃

國あり具小閻魔羅祛と云ふれば天皇と云ふべし

一と云ふる如くして双王といふと云ふらば兄弟ありて

兄と妹と兄の男子の呵嘖如は云と云ふれば妹の女人乃呵

嘖と云ふと云ふるも地獄の阿多と云ふ亦琰羅と云ふ名

てく又静息しつる是の世王の威徳ふよめて罪をはく  
く悪趣に墮するの業はくろきめあひ衆生と饒  
益志のふくむ事之故法王にや奉りて有り地獄乃  
刀山劔樹も琰魔のくくろくもあひあはるばる午頭なるの  
鬼共も琰魔王の抱へるくくろくもあひあはるばる衆生は業  
力よめて感得ありてくくろくもあひあはるばる衆生は業  
獄の有情とてあはるくくろくもあひあはるばる衆生は業  
等がふあめくくろくもあひあはるくくろくもあひあはる衆生の  
いふる事なりをくくろくもあひあはるくくろくもあひあはる衆生の

心ゆゑあはるくくろくもあひあはる衆生の  
此の姿は王の衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
とあはるくくろくもあひあはる衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
祇身ふせめはくろくもあひあはるくくろくもあひあはる衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
てあはるくくろくもあひあはる衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
たがれ生るくくろくもあひあはる衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
まはるくくろくもあひあはる衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
あはるくくろくもあひあはる衆生の悪業よめて地獄ふくろくもあひあはる事  
の出家ありて奉りて西湖の淨慈寺乃智覚禪師に

永明寺の延壽禪師の智覚

塔城遠くを遠く信心しつゝある人其後子孫尋ひて  
かの僧に答ひしに我先達之命終り忽ち炎上王宮  
に到りて大王我に向て汝未だ此界に未だくくどと  
く人向ふ帰るなりとれを仍も我とて歸らんとて王宮  
殿のたれ方知しんがし殊勝なる出家の形を畫て何れ  
あり依圖廣大王殿上を仰りてせめて立門の禮拜  
あり其時我不思議の智ありて大王小同奉りて此  
を告げる僧は何人今をいそとせりて大王答へて汝あり  
ども是は抗別永明寺の延壽禪師の姿也此人修行

禪師の延壽寺の祖師

精進の念佛して極樂浄土上品蓮臺に生じし故  
又我源くくやまし奉る之のありて夢れあり  
くくくくく故に我年々浄慈寺にすて禪師の  
塔を多かりて結縁なること語らるるを圖魔  
大王念佛修行者に崇敬し人事のふあめりる準  
るくくくくく平右衛門然乎に通夜しる夜に夢  
み権現階城押りてせむして祖師聖人をうやまひし事  
あり祖師の權化して海にまよひてたもあふ今人罪業  
源を悪人凡ををくく真途よめりて大王の浄土ありと云

見世川益口賢會少

一呵嘖の苦患を憂ふ身をありはるの故に弥陀  
 願力に強縁に由りて念佛する身とするは娑婆に居  
 るがう聖衆の二分にわたりて諸上善人の救ふるが下  
 さるがゆへに炎魔法王を冠するがゆへにけしうをすいひ  
 したつり五道の冥官と十王経は六道の冥官あり  
 すむらら十王の眷属あり諸経要集に浄土の味経  
 引いて五官の名字はけしうをいへり一は鮮官殺生  
 業を禁ぜしは二は水官偷盗罪を禁ぜしは三は  
 鐵官邪淫を禁ぜしは四は土官兩舌を禁ぜしは五は

五は天官飲酒の過失を禁ぜしは斯の如きの冥官と  
 ろももた夜をほのふ念佛乃行者と守るがたあり  
 故に念佛者の家におかれしを身ふはのりまをうけむ  
 諸佛菩薩并諸天善神五道の冥官をぞとてよく  
 守るもの之をまははたそ近頃尾別名古屋の城下に一人  
 乃浪あり久の浪のゆへ朝夕の煙もぬきけりそあまり  
 せんうきく不果をいたしけりけりふ出りけりそを  
 夜もぬけて町中をう廻りしにむくする一人の男とて  
 くとおゆききける後ちうよんそらんば懐中に物と結

多る神ふりたるはづれ定て金銀取持たるものありん  
 と間近くよりそ一ひりみ切ころし懐に手取入みは  
 はりの取取出し徳をいしを首にかけたる守袋をり  
 銀金とすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
 多二月堂九重たす先神社のすすすすすすすすすすすすすすすす  
 多く取すで星と錦の袋もあつる浪人興さるそそそ  
 く無益のころしすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
 るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 ころころころころころころころころころころころころころころころ  
 ころころころころころころころころころころころころころころころ

尋生るれ死罪に行きころしころしの男守り袋をりけ  
 とす殺すれとせすすすすすすすすすすすすすすすすすすすすす  
 かと守り袋のらつるゆ人ふつと存らまそつてつ命取を  
 とせり人ともりあめと浪人も亦殺すまじたふり  
 あれ守り袋のころ高るる候に兩人の命をとりころし  
 ころし星取よりあつと評判の志をりくそそそ念佛の信  
 者ハ諸邪業繫無能導者の御利益ハ諸佛菩薩ハ云  
 以及つて圖魔之王五道の真官具外一切れ天神地祇は  
 祓はれたる玉の首にはりるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 りるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

い〜〜〜悪魔外道の怖まゝなるなりとて〜佛  
恩の方故深く喜びのなるなり

南無阿弥陀佛とて〜  
他化天れ大魔王

釋迦牟尼佛のこまゝて  
彼の〜〜〜

他化天とて六欲天の頂上在て他化自在天とて此天乃

主釈摩醯首羅王と名て二月八臂の魔王なり〜釋

尊成道の時魔王十八万億の眷屬を引率し力輪劍

戟火車等れ兵具を以て善提樹下に至て菩薩を

めする其時菩薩獅子王の如く〜とて〜と動ト

玉の魔王に告玉りて汝の〜上品れ十善之無遮の會

故以て魔王とては我の無救劫に元漏れ善根を修し

て今正覺を取らりとの〜の魔王とて〜

上品の十善之無遮善根行〜は汝とて〜其證人之

汝無救劫に修行を〜誰故以て〜

〜時菩薩大地故ゆ〜の堅牢地神金輪際

より涌力て前佛如來附屬れ御袈裟衣を戴て出て

はその〜とて世尊に奉る魔王大不怒〜無量乃

眷屬〜の威力故〜大盤石とて〜震動





雷電一毒龍獅子の姿現して菩薩殺害一奉らん  
 とくく耐菩薩眉間の白毫よりまをりて衆をらむん  
 世界國土一切萬物と照しめん其光明金輪際にあり  
 むらまら化して車軸の雨とるん無間地獄に墮きえ  
 て罪人此縁ふよめて地獄とまめりりりの多りりん  
 其時魔王安んじとどし本宮小帰るん菩薩乃光明  
 第六天小至り化して蓮花とるん其う人に過去七佛結  
 跏趺座しめん光明赫奕とてあつれめつ天女足  
 とどろきてつれもて無上道心成をくめん魔王はとく

腹成とそく心はるる我菩薩乃まにむりて佛乃  
 法を聞くとく弟子とあぶるんをくん是れく善  
 薩殺害とてと心定免二千四百人の人きり身と  
 くのりりて免て砂れ中に身成かく一前後七日の間如  
 來の法と聞に按み相違してとく殊勝るん魔王  
 とく砂の中より形と現して改悔懺悔しめんを  
 世尊妙法と授けめん汝我法又歸とるん永く佛  
 法守護とてとめいんははくまむで佛勅なり  
 け永く佛の正法と守ると奉りてとらうんを

にて觀世音菩薩に廿八部衆と云あり娑救仙人那  
 羅延堅固大辨功德天密跡金剛大梵天王摩醯首  
 羅王帝釋天王乃至毘沙門天等共二十八天觀音を  
 信ぜり人衆擁護し之れ其觀音の所らういへり衆を信  
 ぜんと云り之のへ本師れ阿彌陀佛を念と云ふべし  
 て頂上乃宝冠に高サ千里の殊陀といてたて觀經不  
 無量壽佛化身無救與觀世音大勢至常來至此行  
 人之まといへば觀世音菩薩は之れ念佛行者に付  
 きそい守りぬるべし觀音の眷屬するは八部衆阿彌



念佛者守りぬるべしや其中の摩醯首羅王は他  
 化天の大魔王念佛の人と云ふに現世祈らざれば  
 諸天の擁護ある事ありしに如くまこと云ふに現世  
 どののりてむは却て眞衆の罰に當りあまざる當  
 來の大事を取失ふ者一必くまこと云ふに現世祈ら  
 未來永劫の後生と仕換ざる事ありたし  
 天神地祇はまことくく 善鬼神とかけけり  
 天の善神と云ふに 一 よるるはひはのり  
 天の神と天神といふ地ふまはとと地祇と云

祖師上人御本書及灌頂經抄をたぬして二十六部  
 其神王万億恒沙鬼神と眷属とをとり是を  
 善鬼神とてまはしむるといふこと佛法を守後一別  
 して念佛の行者とてりりて之をまふ就て御文に般舟  
 三昧經に優婆夷聞是三昧欲學者自歸命佛歸  
 命法歸命比丘僧不得事余道不得拜於天不  
 得祠鬼神不得視吉良日といふ支那して佛法に修行  
 するもの念仏者に限ると一切の神といはれぬを  
 ゆへて弥陀をたむ念佛の行者の一向專念無量壽佛

と釋尊の金言とて弥陀念をとり外一切の佛菩薩并に  
 とてたれ神明といはれぬをとり念佛の行者  
 を神といはれぬとて守りて念仏に取つてはれぬをとり  
 事の成るにせぬとも凡そこれやといふこと大きく違て  
 陀跋致といふ一向に領解ありてつたゆて余の神とい  
 はれぬがごの志ふたり得たりて一切の神といふ事  
 ととてしてなきん満足志ありて天台の摩訶止觀及和  
 光同塵の結縁の始八相成道の利物の終りとてまはされ  
 て一切の神明推現に奉たると佛菩薩とてまはれ

ども現世の執着源を愚痴乃凡夫は佛道に引入玉  
 りんが爲ふ現世の利益と表として神明権現とあられ  
 るをひりう聖武天皇の源く佛法に帰依しゆい伽  
 藍御建立の祈願ありて我國のより神慮乃事  
 るれば神慮いりて有人と神とれゆい行基菩薩に勅  
 して伊勢を神宮へ遷す一神慮とてうりて志あゆに  
 實相真如の日輪の生死長夜の闇を照し本有常住  
 の月輪の無明煩惱は雲を拂くまありて御示現  
 ありたり此意を疑ひぬるは一通りの佛法の事とて

きては往々考へ玉ふ千早なる神代の時天照皇の  
 つらねのうらみして世界國土の真乃くくもこあり  
 におほくの神のありまらありて神樂坂をせさ  
 はぐるむさそをまきまきして天照皇をれば面向しと  
 めせせむし天の岩戸を開くせむし人か神をうりてわれ  
 て世界國土のわたりありて生死長夜の闇をてを  
 としとて又月讀尊八重の雲をてうりてあひこ乃葦  
 原中津國に降るゆい夜とててててててててててと  
 指て無明煩惱乃雲をてらんと宣ふとてててててて

てハ伽藍御建立之事神慮いづこしとてうりひきつれハ  
天平十四年の十一月廿六日大僧諸兄公致勅使として  
伽藍御建立ありとてうりて神宮に御祈ありて  
勅使歸京の後同月十五日夜天照右神玉女乃形  
とありたれぬハ金色のまじり髪をもちぬハ聖武皇  
帝の御枕りくたえありて海のありとて告めんとて我  
國ハ神慮るれハむし神慮うやまうとてうりて天照  
右神ハ根本大日如來うてを地とわんハ毘廬遮那  
佛より一切衆生よく此理み通て當ハ佛法ふ歸入

とてと告させ玉とて思ふそ神夢さるぬハ帝神夢  
想の次第致はくく御思惟ありてんそそを神宮  
の御本地ハ久遠古殿に御佛を海まことりのとて  
いとありてくく思ふしよく道心とてませぬハ始と  
神願ありとて東大寺の伽藍也此事神宮雜事記  
と云書物ふくまをりむし楞嚴院の先德惠心僧都  
ありとて芳野の明神へ奉請ありて折ふ一人の巫に  
神れ託宣ありとて僧都たふとて思ふして天台宗  
の法門日頃不審れ事共と尋ひぬハたあきうりて

清くして有らば次第に取入て宗旨の大事成り尋あり  
くらん此巫柱にのりて足とともをわたり和光乃し  
さうらんをうきとともをうきとともをの神託宣ふを有りける  
此神慮成寝い奉らん久遠古成此諸佛如来無縁の  
大悲小僧ふらんぬい神明和光と跡とらんぬいより  
幾千万業ととも事成志ととも然らん迷いの凡そ和  
光同塵のこけ成志ととも神いぬで現世守護の御役  
目とぬけ我身の宿世成志とともぬまらんぬいぬぐ不  
相應の預いと押ととも此分のちとぬけして祈誓する

とくひまき多し去んがとて後世菩提の事とてい  
かひなりトよまらんぬい法味らんぬい御取らんぬい  
たれがうとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
御託宣らんぬいと殊勝小有らんぬいと覚ゆいと押と神  
明和光の浄土成願ととも弥陀みらんぬいとととも  
あらんぬいと弥陀成念と浄土と預らんぬいと身とらんぬいと  
此御本意成達しぬいぬいぬいぬいぬい御満足らんぬいと  
るん浄満足らんぬい浄らんぬいと浄らんぬいと浄らんぬいと  
らせぬらんぬいと浄らんぬいと浄らんぬいと浄らんぬいと  
浄らんぬいと浄らんぬいと浄らんぬいと浄らんぬいと浄らんぬいと



専念に弥陀の大慈悲を奉るべし

願力不思議の信心は

大菩提心なりん

天地よりもは悪鬼神

をまといくおそるるる

ゆるくの難行故とて一心に弥陀を歸命すべし

不可思議の願力とて佛れ方より往生の決定せし

ゆゑにぞと信しなまふおらうほども疑ふれ

と願力不思議の信心とて大信心海の基のゆゑに

のて願力より發起とるがゆゑに祖師上人は清き

あつて凡そ自力の才覚よそは抑へ得らぬ信心

るるゆゑ弥陀の他方よりあつてゆくゆゑも他方れ清ら  
くして塵をくわくわくしてはるるが自力よていあつ  
得る事のゆるいゝとてとまらば多く不思議と御信  
しはるゝの兎角のさういふ有るやうに作りあつて四時  
行ふ百物生とてやそ天地乃る春夏秋冬の四時廿四  
季七十二候とていふやうに時分くく雨ふり風吹き花  
さるる実の是等の事とて不思議なり鳥は深きん  
皂く鷺のさうはざうに白く竹の節乃自然なる馬  
の鬣あるさうに陽春の日暮化して鳩とてうと産海中

ふ入て蛤とてさういふとて不思議の事共なりまに  
就て近ころ丹波れ國ある在所小蟻の塔坂はとて  
事何り其高き八寸具細工のさういふ事とて語  
に絶しとて事あるとて近郷近在といふ及て京都大坂  
より見物とて集つていふこととて奇異の想なありたり  
まうれとてそれなまのいふとてあつての兎角とて疑ふ  
てはるるいふとていふとてそれの類りれぬ事なり  
春れ頃燕乃巢なけけ画眉鳥の巢は造るるとて其  
いふとていふとていふとていふとていふとていふとて



ありてはなるん業力の不思議とてなす一蜂は巢をほ  
 くるま本乃は膝をくみ取ませてさぬく様候とほけ  
 まりりする細工はくはまはるるさちいさた  
 蜂の細工とてあのごくくみ取なは星又業力乃不  
 思議なりまうれは星の人の澤とふる事ゆのりて疑  
 りて是は疑りて未とてくも蟻乃塔候はくはを  
 疑りんや蟻の塔候疑りて人の弥陀如来大願業力と  
 凡そは佛よりゆのり疑りてなすやうなるんまうら  
 ありてはさてく不可思議の清意悲哉と信なる

よろと外なるなりりのごく信に奉らぐすあり願  
 力不思議の信心候得る姿とてあるは此信心候はる  
 とありて大菩提心をたつ菩提心とい上求菩提下化衆  
 生とて上の無上菩提のさうを願ひ下の一切衆生を濟  
 度しはくさんと勇猛のさげした心候はくはくはく大  
 菩提心とて我れ凡そ身がらるるをうらるる及いそと  
 は事と候はくは弥陀をたもて他力の信心候獲得とれ  
 を其中に願作佛心度衆生心は二つとれ初とてこのは  
 り願作佛心は佛ふたりとれを度衆生心を衆

生れたまはけられたるをすから上求菩提下化衆  
 生の心をすなわちの眞實他力信心せらみこころ故  
 に願力不思議信心して往生治定の覚悟にゆづら  
 ぬとていふにそれこそ大菩提心を大菩提心を  
 天地の間にありとありの悪鬼神のまはさくくか  
 それとありて遠ざかるるむの諸越永明壽禪師  
 の寺に江湖のありける耐千人余の大衆ありける  
 不淨場のありしを押しほど金神七殺の方におかれり  
 弟子禪師ふ告して不淨場をうへてまゐるべし

の念禪師ゆされたる一具とてなる不淨場をうへ  
 び家事のつく無用なりとていの方すの地といふ  
 ども此寺の境内をうへつうへた廁敷まへけりとも  
 何ものうへつうへたまんやの金神の方におかれ  
 けがらうとていの方よりとてなさるるなりとて  
 うら捨てられけるが時節なりけり弟子禪師は寺に  
 ちうれ湖水の深きなりて四方に景色なるがあり  
 小傍敷をいあやしけるは七人の老人髪をうさぎに  
 水板あて居る候とて様子を探るれば老人共中

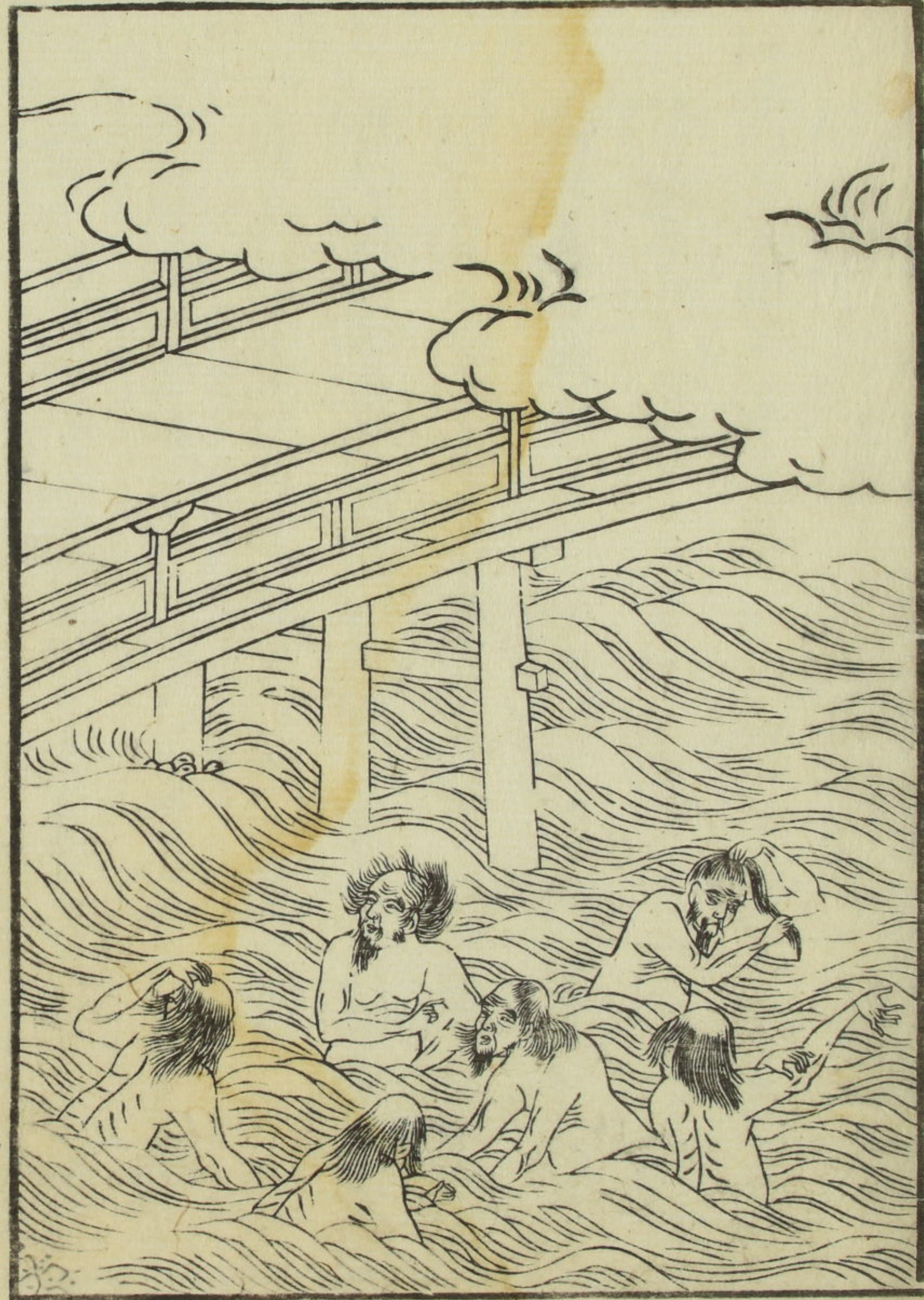
我の金神七殺の神より此度壽禪師の寺に不浄場  
とせられぬとて我が御師の御人の御師とて  
大勢の大龍宮入り入り首の上へむけては小便を  
する事志せしむるも其まかり具けがらむと  
人方もしよしそれゆへ今日七人の中合世此河水を身と  
きよむるも然るに金神七殺の神は羊徳神の嚴命を  
とて不潔定免おられぬとていかに不浄なれども  
くは所をさる事けは成あつて佛弟子なれば出  
ねるに金神七殺の神と志せしむるも人けがら

志せしむるも七人共おきけとてくはせらるるも佛道  
修行の人の金神七殺の神とて恐れをまよはるるは  
て弥陀の大悲願作は攝取心とのうらにせよあらねる  
身の直れ佛弟子なればいりるる鬼門金神も皆おそれ  
ねるしとらるるものもこれゆへに願力不思議の  
御利益なれたいよし弥陀如来の御恩なすらるるに  
報謝の称名おとらるるまじりあり  
南無阿彌陀佛とておれ  
恒沙塵劫の菩薩と  
観音勢至のそと  
おげれとくに身にそと

見其川口賢會少



見其川口賢會少



觀經に無量壽佛の化身無救るる觀世音大勢至と  
 常小此行人のまに來至しぬと從處り志りぬ本  
 師阿彌陀如來の化佛もども修りしるくあられぬ心  
 念佛行者れまふ來至ぬして其人と守りたまふこと  
 本師如來の淨化身のまに來至ぬ觀者勢至亦無救の  
 化身と作し常小此行人のまに來至しぬ勝友知識  
 と作て隨逐影護しぬと善導の觀念法門ふつと  
 ころ觀音勢至の次第のこく彌陀の慈悲と知恵と  
 故はくまこりぬ衆生濟度と修りぬの摩訶

止觀に六觀音故釋せしに聖觀音地獄道とあらぬ  
 の二ふ千千觀音餓鬼道と利益しぬの二馬頭觀  
 音畜生道とめづぬの四に十一面觀音修羅道と救ひ  
 の五に準胎觀音人道と化益しぬの六に如意輪觀  
 音天道と濟度しぬの七に國王大長者居士宰官  
 婆羅門婦女身等の二十三身故現に廿五之味ふ入て  
 廿五有の衆生と饒益しぬの八に事はぶるは法華  
 經にまふり次ぬ大勢至菩薩の彌陀如來の淨觀  
 とつとまふりぬ此菩薩のめづぬの九に時三千大千

世界一時に震動し及び魔の宮殿はうごきあはれ  
 大勢至菩薩と奉りむうし女は安んずりし時  
 念佛之味は勤多しとさうり候得あゆみ今阿弥陀  
 如来の脇士とさうりあして念佛の行者と攝取して淨  
 土に歸せりあふ之斯のごく觀音勢至乃至二菩薩は  
 共に本師弥陀如来の左右に之せりあはれ二菩  
 薩はあどりさうりもさく化菩薩のあはれあはして十方  
 世界の念佛の人救守りあはれさうりさうりさうり當流ふも之  
 尊と安置して二菩薩ふもはく人さうりさうりさうり

てあむ本師弥陀如来一弗候念せよと押さるるあはれ  
 心とさうり千手經は觀音の清らき候説て我を念せ  
 んと欲せしもの先はさうり専ら我を師阿弥陀如来と  
 念せよとさうりせり大勢至の清本念し是に準  
 てさうり大勢至の二菩薩弥陀の御弟子ゆふ法師  
 通への清遠意を我とさうり是本師弥陀と念せよと  
 のあはれとさうりあはれと固より弥陀の本願一は我と  
 我と我と近んとさうり佛約束して南無阿弥陀佛とさ  
 うりあはれあはれ二菩薩も本師如来の清極ふは任

廿一、心專念のむの依本念と志のあゆむ之故、小釋尊も  
 大經に一向專念無量壽佛と説く、論主の一心和尙  
 乃一向七祖御相承のむの全く爰にあり故に一向專  
 念の依の性生れ肝膽自宗の骨目とせしめ、今の行  
 者あやまりて脇士ふはく、あまらるるれ必むく、あは  
 らしむ心依るる中とほのく、れ清勸化之今も亦一  
 向專念として、また目張るるぬりの依、觀音勢至深く  
 清満足ましくして、よろこびあやせむ、之此とて、  
 能く知れぬるを、

无尊光佛のひかりに

无教の阿弥陀ましくして

化佛のあゆむる

眞實信心とまのりあり

觀經に、この佛乃圓光の百億三千大千世界のぞく、  
 圓光れ中に於て百万億那由他恒河沙の化佛あり、  
 一々の化佛に亦衆多無数の化菩薩あり、之侍者と  
 して、經の今又坐禪之時、經の極樂の教主、弥陀會  
 佛ののろく、れ衆生に随順して、毎千返住所、亦來  
 了て踊躍歡喜し、之來、確言諭さく、説く、阿  
 弥陀如来とて、盡十方無尊之如来とて、奉る外の、法山

林煙霧等いさくらん玉の内の心法は衆生貪眞煩惱の  
 心の底にたてしめて清淨願生生の信と得せしめ  
 是は無尋之佛乃徳之如来の光明かくの如く无尋  
 にはいせしめ衆生も尋ありて常に照しおつは佛  
 心も得得得がまぬて日輪の光りあまふて四天下  
 てもせしめ盲目の眞心より眼をまき日輪のとがとせ  
 んや如来の光明の盡十方のけさるるてしめて  
 とも迷の衆生の業障はさるまを其清ひより眼得  
 得がまぬて如来の清無念のありてまきうていりあは

盲目の人も日輪少てらさるる奇特ふくく陰たつを  
 陽ともく我も煩惱れぬふ智慧の眼とあはりて撰  
 取の清むり眼がむ事ハ叶の福どほのいてしる  
 て光明のなるてしるまきまきまは佛慈悲のあつて  
 くる身はまて折らるるまらるるると称名を唱  
 喜ぶる時にの盡十方の弥陀佛ふのまきまきまら  
 化佛のあつたれまらて其化佛とくく眞實信心の  
 行者を守りあつてむりて尊八十歳二月十八日涅槃  
 入るまも尊骸は金の御棺に押しあをりたる清母



摩耶夫人の佛御誕生七日の後命終らせぬい切利  
 天みせしむらそおろはくうらに倅ふむららだ  
 ちんかどに何事やらんと定に入てとむ人の下界みま  
 ぬと人尊佛入滅るう摩耶夫人驚らせぬい雲をふむ  
 てあまんとてうらぬいなる佛の尊骸い御棺乃うらに  
 押さまりぬい夫人御棺取はききさかてく歎かせぬい  
 不思議るう哉御棺の蓋とのづらう開け己ふ入滅  
 ぬい夫人尊再びとてうらせぬいて虚空にぬりぬい  
 事七多羅樹の高と眉間の白毫より千とらら乃之



明とてその人一人ごとく毎に化佛のあらはれし本  
佛の尺尊摩耶夫人に禮拜し一人一人の千乃化佛  
とてその人一人に禮拜したる人斯れごとく之返すて  
禮し之を以て十月懐胎の思に報じし人の  
當來に衆生に親に孝養とてた事を示し人の  
尺尊に化佛を愛し之を今阿彌陀如来に無量無  
数の化佛はしく本佛の護りありて化佛各々  
ももに念佛の信者と守りありて眞實信心の行  
者なりとていふがごとく法守りあり自力の行者なりとて

此事あり今時の行者の多くて自力執念のこころは  
乃方とありてその人一人ごとく其の心は  
奉りて

南無阿彌陀佛とてその人一人  
百重千重田遠して  
十方無量乃諸佛と

十方諸佛の守護とい阿彌陀經に畧して六方と  
あり稱讚淨土經に十方と從あり十方とい上下  
東西南北四方のともしく是を十方といふは十方に  
諸佛恒河の砂に数など多くはあり其如来

念佛行者は百重千重に取替はれぬしよろこびい  
ささまり終えたる人の盲人に衣服とききはるるに  
まに衣はけりてぐるめりぬやうみとるに我目み  
てこれと人の目ふもゆるゆらり我亦の智慧に眼  
かく盲目の前の身るんども法佛如来法天善神ま  
で影身にそくそ守りあふ身るんが眞見はてらそ  
随分と悪まな忍れたるむむをとおくいまう  
くくいまいふごとくしたまよりあつたまのゆえ  
それが厚くは凡まの方より法佛菩薩法天善神の

おがまのど彼方方よりいりてうたえぬ之は  
眞見とまはして念佛者の身はほのくはま  
あまらむむうくは放逸我まにあらう人今  
よりの如来擁護のくりと眞衆の照法なまを  
てとろづも身口の悪業と多しむと一足念佛  
者の用を十免れ中ふも殺生罪最おの倫盗のぬ  
まも他のおぬれと取事人ゆるさばいんや  
公義の常の御大法わんがんとおそれておとりの  
まし之唯此殺生罪生あるものの命取るとい王法は

定まる所制禁する事れば此罪ありやと一毒園盆  
 経に抑えそ人の我親と殺さぬ功德と蚤蚊ところさぬ  
 功德といつまら傷ゆぞと向うそ蚤蚊と殺さぬ功德  
 ちありぬとくれとらと逆ゆつと具故ハ我父母ハ恩徳  
 深しいかるう事ありても殺されぬもの殺されぬ  
 りのふて殺さぬの殺さぬとそ功德ととんきほ  
 どの事におくど蚤蚊ハ我ハ害わらぬのありと  
 こも恩義なりとこれと殺といつとやとた事  
 あり故にの殺さぬの具功德とぐれとらと逆ゆつ

抑えそ山野の禽獸江海の鱗虫穴を飛はをさ地り  
 とむむとられたぐみ果報はさきりのものもか佛  
 性道具とらうと悔して如来ハ大悲のこころ入  
 ると人の人回むうたあそれのしにあらば一  
 切乃生類のみな平等にありれとあつと人兄と  
 て弟にあらくあつと父母の心にそれを怒りんや  
 人の果報とぐれて兄の如く異類れりの果報やとら  
 て弟のぶと佛の清目ハ果報はさるれやと猶不  
 便ふあがされんとあつと張情る殺害一命とら

如來大悲の沛心具足をうれしとやめさんや如來を殺  
淨土を預けはるの身の取はけ懐むべし古歌ふらるるの我  
身をほみてさう平命の押たのこまらざるやされども  
過去に宿業を穢とるなりも度世とあれは是れもほ  
度世身とだもあゝどして無益の殺生をどいひのり  
甘まら来たたゞのやうにさるるをなすて生は乃た  
とけとするふらあはは生は佛の願力を助させぬ其  
嫉しとめ殺生未の悪まもすゝつたるもそそ大悲  
の沛胸とやとをなるこ星と觸光柔軟の沛利益も

しん常行大悲ははとめもさるるく人とも真衆の  
照鏡を忍ぶべし現世の利益とむとがる事らるる真加に  
あかりんとあそひの事らるる真加にむとめやうふと  
すまはるる人間もねど又あつた浄法もあつと  
人間に生れし今生のさうる本預も値なりとるも  
今生のさうるるるる今と志らるる命は  
ゆらていつららるるき世の名利の着る一大事の  
後世にさるるるるはは同なる事といふは  
安心と取ては生は決定し佛恩報盡のはとを他

事ふるべし其人のさあふれぬらん現世の淨利  
 益とあるべし現世の淨利生後奉くして大事  
 の後生取とせむはかふ之忍道れ下づとある  
 て無量永劫出り奉りけりいかにさうべしは  
 人またあら  
 けり大奉ふいぞ穴貫ノ



現世利益和讃繪抄下終

天明四甲良年春

書肆

京東六条下珠數屋町

丁子屋九郎右衛門

京寺町通松原下町

菊屋喜兵衛

大坂心齋橋筋順慶町北入町

拍原屋清右衛門

天海子之藏  
八十一卷之三

藤田氏